

## 「SEND プログラム 2015 年シドニー大学スプリングスクールプログラム 参加報告書」

京都大学農学部・資源生物科学科3年 晴気七菜

この2週間私にとって最大の壁は、英会話でした。シドニーでの初日、周りの留学経験豊富な仲間たちがバデイと楽しくコミュニケーションをとっているなか、私はほとんど会話に加わるできませんでした。これまでの大学生活に英語を話す機会がほとんどなかったため英語を読んだり聞き取れたりすることはできても、とっさに話すことができなかつたのです。言いたいことを思いついても、それが伝わるかどうか自信が持てず、恥ずかしくて口に出せなかつたのです。しかし、英会話の Eugene 先生の授業や、街中のたくさんの英語に触れるうちに自分の中でどんどん身近に感じられるようになりました。異次元の言葉が徐々に自然に感じられるようになったのです。Eugene 先生の授業はオーストラリアの文化や歴史、考え方をわかりやすく講義して下さっただけでなく、私たちに積極的に英語を話す機会を与えて下さったため、私にとっては羞恥心を捨てて英語を話す大きなきっかけとなりました。そして、もっとも大きなきっかけとなったのはバデイやシドニー大学の生徒たちともっと楽しく話せるようになりたいという自分自身の思いです。特に、私たちの日本文化についてのプレゼンテーションを聴きにに来てくれた生徒や、日本語授業で知り合った生徒達は日本についてもとても興味ある人ばかりであったため、彼らとは話がつきませんでした。もちろん流暢な英語とはいえませんが、日本語で友達と冗談をいいながら話しているのと同じ感覚で会話できたことは、私にとって非常に大きな一歩でした。こうした心と心のつながり、仲良くなりたいたいという思いがこのプログラムの目的の一つである国際交流の真の姿なのだと思心から実感しました。

今回のシドニースプリングスクールは、私にとって初めての海外留学経験でした。2週間という短い期間でしたが、毎日大学でたくさんのプログラムに参加し、放課後や休日は街を探検してシドニーの人々のリラックスしたライフスタイルや明るい人柄を目の当たりにし、現地で出会った日本人やシドニー大学の友人達と交流したこの日々は、私の中の人生観を大きく変えました。また今回のメンバーは誰もが様々な経験をし、自分を磨くためにたくさんの努力をしている人ばかりで、このような魅力的な仲間に出会え、衣食住をともにしたことも私にとって大きな財産となったと強く確信しています。このプログラムを終えた今、私はこれからもっと意欲的に様々なことに挑戦し、自分の可能性をもっと広げていくことをここに誓います。進路については、今までは日本国内しか考えていませんでしたが、また留学に挑戦してみたいと思います。今回のプログラムに携わって下さった京都大学およびシドニー大学の先生方、本当にありがとうございました。